

だからのせいでもないっ てさ

向中の小学校 一年 きくち まおり

「あたしはてんかんといふびょうきだ」

「はいときから、ずいぶんいにかよって

よ。びょういんはちゅうしゅが

があるからさらい。

でも、ママと二人きりのデートの日でもあ

る。

「今日は何のジュースにする？」

と、ごほうびがもらえる。四人きょうだい

いつもママのとりあいで、この日だけはあ

たしだけのママだ。

あたしはしっこいるよ。ママはあたしのび

ょうきと自分のせいだ。てないていたのを。

ママがあるのがな。あたしが小さいとき、

パパはたんしんふにんだ。ママは、

「パパがいなくてモエちゃん」

ママはつよいな。かっこいいな。そんなつよ

いママは、みんながあたあとひとりですく

いていたよね。あたしをいってごめんね。

四人のなかであたしだけかてんかんでごめん  
ね。

びょういんの日、あたしはせんせいになり  
いてみた。

「ママのせいじゃないよ。びょうさはだれ  
もあるくないよ。」

ママはないた。おとななのにみんなのまえで  
ないたよね。

「まおちゃん、おまじがどう。」

ママのえがおをみて、心があたたかくなると  
だれのせいでもなくてよかった。

パパのたんしんぶにんかおあって、いまの  
デートはパパになった。

「ごほうびはなにかい？」

「こうきゅうアイスをとおおかいします。も  
ちろんママの分もね！」